

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム

令和3年度(2021年度)の指標目標達成状況 および 令和4年度(2022年度)の取組について

1. 令和3年度(2021年度)の指標目標達成状況について

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2(2020)年1月に初めて国内で新型コロナウイルス感染者が確認されてから、3年が経過しようとしている。感染拡大が始まった令和2(2020)年4月に緊急事態宣言が発令され、施設閉鎖や行動規制が図られた。令和3(2021)年2月よりワクチン接種が始まったが、再び感染拡大により 2021年5月及び8月に緊急事態宣言が発令された。

表 3-1 北海道における新型コロナウイルス感染症対策と旅行需要対策

2019(令和元)年度	2020/1/28	道内で初めて感染者を確認(中国武漢市からの旅行者)	
	2020/2/27	全道の小中学校に休業を要請【期間2/27~3/4】	
	2020/2/28-3/19	新型コロナウイルス道独自の緊急事態宣言を決定・開始【期間2/28~3/19】	
2020(令和2)年度	2020/4/8~5/6	新型コロナウイルス感染症集中対策期間	
	4/17~5/25	緊急事態宣言	
	5/25~5/31	国が緊急事態宣言の解除を決定、感染拡大に向けた「北海道」の取組	
	6/1~7/31	段階的緩和	7/1「どうみん割」等開始
	8/1~9/30	新北海道スタイル集中対策期間	7/22「GoToトラベル」開始
	10/28~	集中対策期間	12/28「GoToトラベル」一時停止
	2021/3/7	集中対策期間終了	
2021(令和3)年度	2021/3/8~5/8	感染の再拡大に向けた取組	「どうみん割」等道内の旅行需要喚起策が各地で実施される
	5/9~5/15	まん延防止等重点措置	
	5/16~6/20	緊急事態宣言	
	6/21~7/11	まん延防止等重点措置	
	8/2~8/26	まん延防止等重点措置	
	8/27~9/30	緊急事態宣言	
	2022/1/27~3/21	まん延防止等重点措置	
2022(令和4)年度			
	2022/10/1~	全数届出の見直しに対応した取組の推進	
	2022/10/11~		10/11 外国人の新規入国制限の見直し 入国者総数上限の撤廃

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室(<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/covid-19/koronasengen.html>)より抜粋

2. 新千歳空港の利用状況

道外からの旅行動向として新千歳空港の月別乗降客数をみると、令和3(2021)年度は、令和2(2020)年よりも回復傾向にあるが、**令和元年(2019年)の乗降客数のおおよそ2割から6割程度**となっている。**緊急事態宣言期間中の6月や9月は乗降客数が減少**している(図3-1、表3-2)。訪日外国人旅行者については、令和3(2021)年度の国際線の乗降客数はわずかであり、新千歳空港国際線の定期便は令和2(2020)年4月以降、令和4(2022)年7月まで運休が続いた(表3-3)。

図3-1 新千歳空港の月別乗降客数の推移

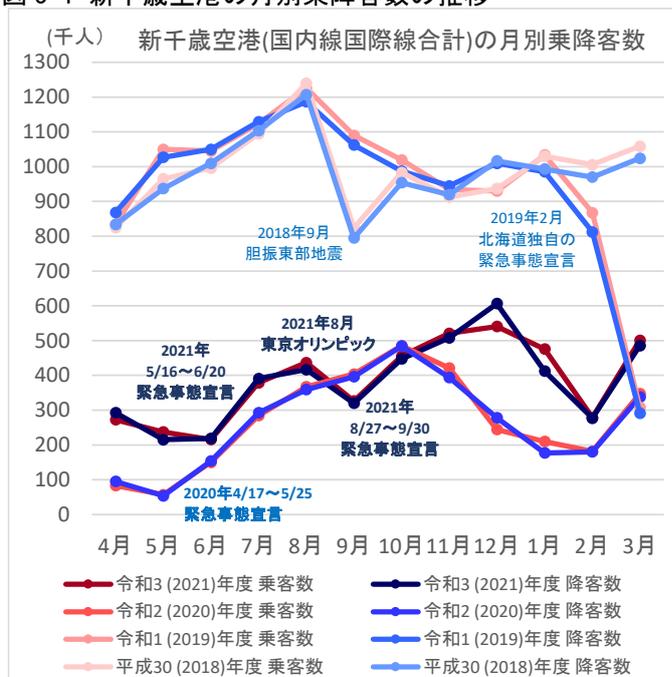


表3-2 新千歳空港の月別乗降客数(国内線国際線合計)の2019年比の推移

	平成30年度 2018年度		令和元年度 2019年度		令和2 2020年度		令和3 2021年度	
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数
4月	98.8%	96.0%	834,577	868,420	9.9%	11.0%	32.7%	33.7%
5月	91.9%	91.2%	1,049,984	1,027,018	5.4%	5.2%	22.6%	20.9%
6月	95.3%	96.2%	1,044,917	1,049,613	14.4%	14.6%	20.6%	20.8%
7月	97.4%	97.7%	1,123,962	1,129,289	25.3%	25.9%	33.7%	34.6%
8月	101.1%	101.7%	1,226,040	1,186,612	30.0%	30.3%	35.6%	35.1%
9月	75.6%	74.8%	1,089,963	1,062,194	37.0%	37.3%	29.9%	30.1%
10月	96.5%	96.6%	1,019,168	987,336	47.6%	49.1%	44.7%	45.3%
11月	97.7%	97.4%	934,430	944,571	45.1%	41.7%	55.7%	53.8%
12月	100.8%	100.7%	929,973	1,009,528	26.3%	27.5%	58.1%	60.1%
1月	1,030,060	993,192	100.3%	99.2%	20.4%	17.8%	46.2%	41.5%
2月	1,005,621	969,818	86.3%	83.7%	18.0%	18.6%	27.7%	28.5%
3月	1,058,654	1,024,323	29.1%	28.4%	32.8%	33.0%	47.3%	47.4%

※令和1(2019)年の各月の乗客数、降客数(緑色)を基準とした2018、2020-2021年の各月の比率を示している。赤字はその年度の2019年比の最少の月、最大の月の比率を示している。

表3-3 新千歳空港の国際線の乗降客数の推移

	平成30年度 2018年度		令和元年度 2019年度		令和2 2020年度		令和3 2021年度	
	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数	乗客数	降客数
4月	124,443	125,329	140,936	131,678	0	0	0	0
5月	139,401	140,796	150,567	166,540	0	0	0	0
6月	144,656	151,398	163,982	170,232	0	0	7	0
7月	183,440	190,422	196,388	199,794	0	0	3	3
8月	190,543	177,802	165,232	146,885	0	0	2	0
9月	93,965	92,198	94,758	99,921	0	0	0	0
10月	125,094	123,711	120,295	118,965	0	0	4	0
11月	119,659	127,795	109,100	118,400	0	0	0	0
12月	199,894	214,414	184,368	195,780	0	7	0	3
1月	218,164	221,978	196,449	200,589	1	2	79	0
2月	209,484	202,789	121,925	99,240	0	0	0	0
3月	174,528	165,755	10,100	6,088	0	0	0	0
合計	1,923,271	1,934,387	1,654,100	1,654,112	1	9	95	6

新千歳空港乗降客数：国土交通省空港管理状況 (https://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000185.html) より

3. 指標目標値

支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラムでは、2025年あるいは2025年度を目標年次として、2020年度に以下の指標目標値を設定した。

目標値1: 宿泊客延べ数(年度合計)

訪日外国人の需要回復に時間がかかることから、地域の観光産業を維持するためにも道内外の旅行者需要の回復、確保が重要である。コロナ禍の影響を受けていない2019年1月から12月までの直近1年間(2019年)の宿泊客延べ数を2020年度以降の回復目標値に設定した。

目標値2: 日帰り利用者数(年度合計)

国立公園の利用は宿泊だけではなく、日帰りの利用も多い。国内外を問わず、全体の利用動向を把握するうえで重要な指標となる。コロナ禍の影響を受けていない直近1年間(2019年)の日帰り利用者数を2020年度以降の回復目標値に設定した。

目標値3: 季節変化(宿泊客延べ数最少月/宿泊客延べ数最多月: 年度内変化)

安定した観光事業経営のために、また質の高い利用環境を確保するために、利用の平準化を図ることが必要である。コロナ禍の影響を受けていない直近2年間の変化率(最多月の宿泊客延べ数を100としたときの最少月の比率)から、支笏湖地区は変化が激しいことから目標値を最多月の半数の50、定山溪地区では2019年、2018年の数値から目標値を70に設定した。

目標値4: 訪日外国人旅行者数(年合計)

アンケート調査(観光庁「訪日外国人消費動向調査」)による推計値ではあるが、訪日外国人の宿泊、日帰りの両方が含まれた利用の指標となる。コロナ禍を受けていない2019年の推計値を回復目標値とした。

目標値5: 訪日外国人宿泊客延べ数(年度合計)

コロナ禍の影響を受けていないとされる直近1年間(2019年)の外国人宿泊客延べ数を2025年度までの回復目標とした。

参考比較値: 支笏湖・定山溪地区及び周辺の主要施設の利用者数

国立公園内外の主要施設や道の駅等の利用状況を収集し、目標値の参考とする。

4. 指標目標値の達成状況

2021年度における支笏湖地区及び定山溪地区の指標目標値の達成状況は、表3-4、3-5に示す通りであり、**宿泊延べ数は、支笏湖地区で7割未満、また定山溪地区で4割に満たない結果**が示され、厳しい状況となっていた。

支笏湖地区は、宿泊、日帰りのどちらも令和2年度より減少した。令和2年から3年にかけて収容人数100人規模の宿泊施設が閉鎖したことの影響が考えられる(表3-6)。

定山溪地区は、令和2年度より宿泊施設数が増え、宿泊、日帰り共に増加がみられたが、宿泊については目標値(2019年値)の半数に満たない。

令和3年度では国際線の就航がほとんど回復しておらず、推計に用いる空港での調査が中止となっているため、訪日外国人旅行者数は算出されていない。

表3-4 支笏湖地区

	指標	期間	目標値	2020年度	2021年度	達成率 ⁽¹⁾
1	宿泊客延べ数：人泊	年度	157,000	115,617	105,223	67.0% (73.6%)
2	日帰り利用者数：：	年度	913,000	353,547	322,693	35.3% (38.7%)
3	季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)	年度	50/100 (0.5)	2,011(4月) / 21,942(8月) =0.09 ⁽²⁾	4,337(6月) / 19,892(8月) =0.22 ⁽²⁾	44% (18%)
4	訪日外国人旅行者数 [*] :人	年	40,000	1-3月 (6,439) ⁽³⁾	— ⁽³⁾	— ⁽³⁾
5	訪日外国人宿泊客延べ数:人泊	年度	27,000	968	24	0.1% (3.6%)

表3-5 定山溪地区

	指標	期間	目標値	2020年度	2021年度	達成率 ⁽¹⁾
1	宿泊客延べ数：人泊	年度	1,138,000	361,334	394,487	34.7% (31.8%)
2	日帰り利用者数：：	年度	419,000	242,721	268,238	64.0% (57.9%)
3	季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)	年度	70/100 (0.7)	8,933(5月) / 60,010(10月) =0.15 ⁽²⁾	9,184(6月) / 55,456(12月) 0.17= ⁽²⁾	24.3% (21.4%)
4	訪日外国人旅行者数 [*] :人	年	131,000	1-3月 (9,421) ⁽³⁾	— ⁽³⁾	— ⁽³⁾
5	訪日外国人宿泊客延べ数:人泊	年度	209,000	35	32	0.0% (0.0%)

(1) 小数点第2位を四捨五入、カッコ内は2020年度の達成率

(2) 小数点第3位を四捨五入

(3) 「訪日外国人旅行者数」:

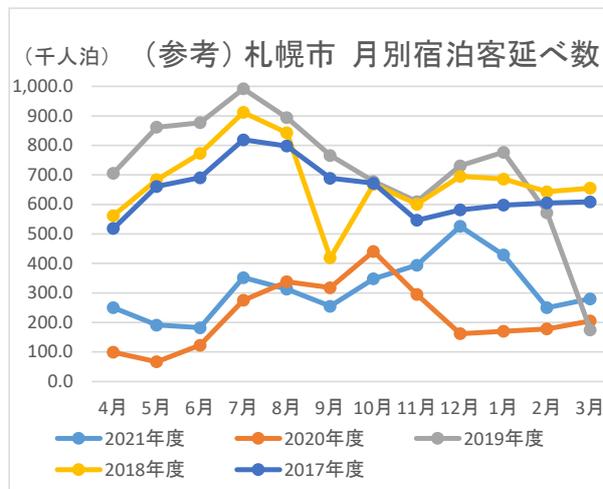
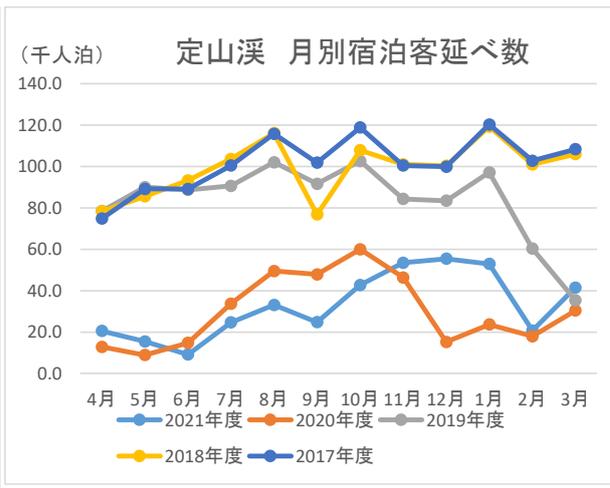
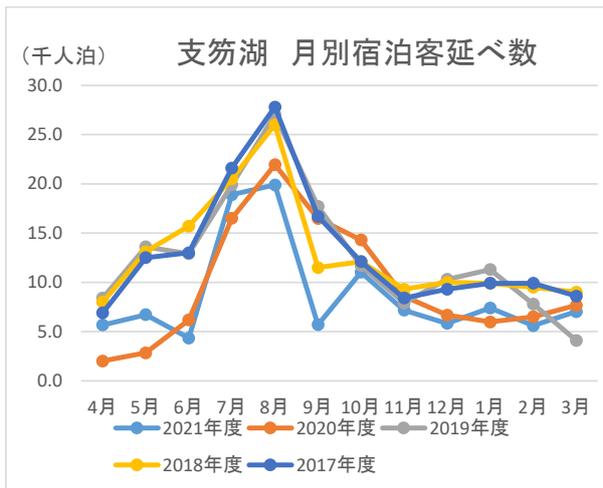
「2020年4月以降新型コロナウイルス感染症の影響により入国制限が拡大し、推計に用いている観光庁「訪日外国人消費動向調査」が4月以降中止されたため、2020年、2021年の国立公園の訪日外国人利用者数は算出不可。

表3-6 支笏湖地区及び定山溪地区の宿泊施設の収容力

支笏湖				定山溪			
集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)	集計基準日	軒数(軒)	客室数(室)	定員(人)
平成28(2016)年5月1日現在	10	219	807	平成28(2016)年(2017年3月31日現在)	21	2,052	8,407
平成29(2017)年5月1日現在	10	219	807	平成29(2017)年(2018年3月31日現在)	21	2,075	8,464
平成30(2018)年5月1日現在	10	219	807	平成30(2018)年(2019年3月31日現在)	21	2,094	8,535
平成31(2019)年5月1日現在	11	244	903	平成31(2019)年(2020年3月31日現在)	23	1,970	7,623
令和2(2020)年5月1日現在	11	244	903	令和2(2020)年(2021年3月31日現在)	35	1,944	7,449
令和3(2021)年5月1日現在	10	226	795	令和3(2021)年(2022年3月31日現在)	36	1,997	8,163

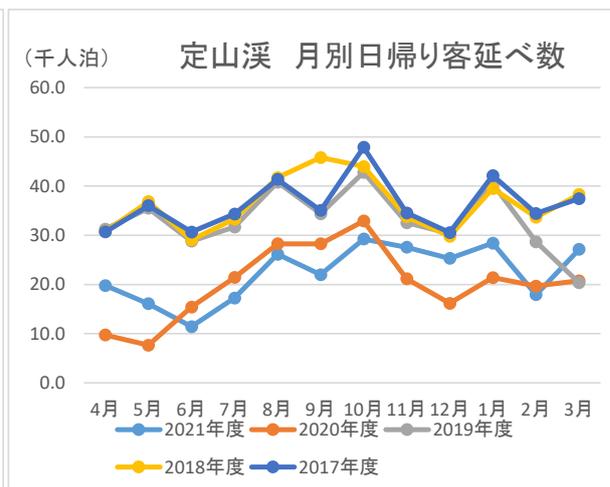
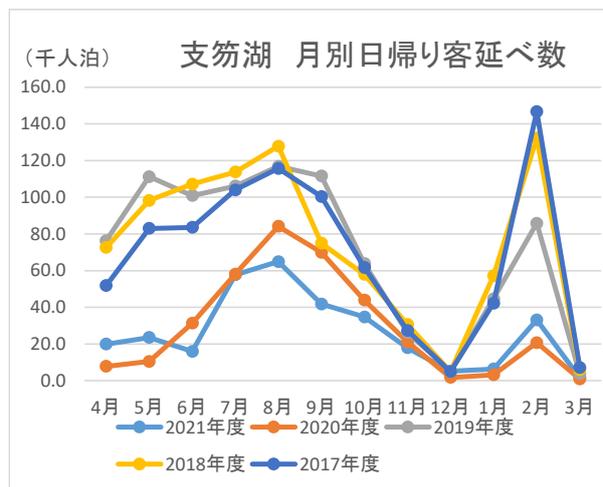
図3-2 支笏湖地区及び定山溪地区の月別宿泊客延べ数

「要覧ちとせ」「札幌の観光」より



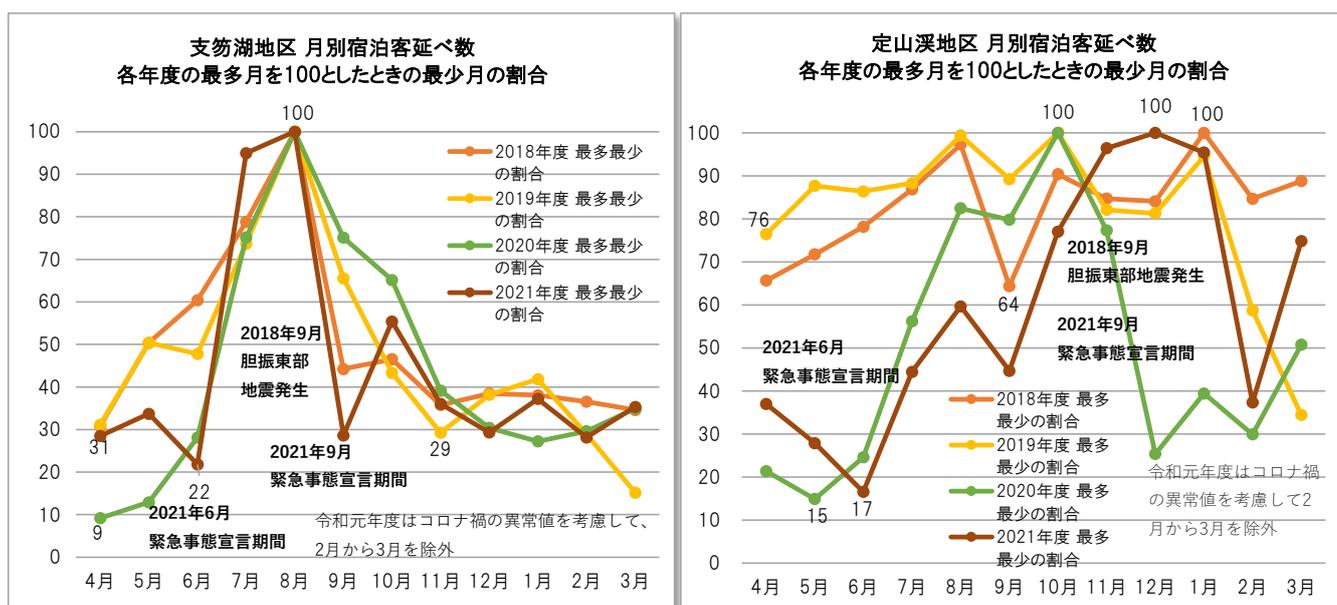
支笏湖：千歳市提供データより
 定山溪：札幌市提供データより
 (参考)札幌市：「札幌の観光」より作成

図 3-3 支笏湖地区及び定山溪地区の月別日帰り客数



月別の動向をみると、令和 3(2021)年度は緊急事態宣言が発令された 6 月及び 9 月に宿泊、日帰りとも減少し、利用者が多くなる夏の 8-9 月において、令和 2(2020)年度の利用者数を上回ることがなかった(図 3-2, 3-3)。令和 2(2020)年度は、夏から 12 月にかけて GoTo トラベル等需要喚起策が講じられていたが、令和 3(2021)年度の 8-9 月は緊急事態宣言により旅行が控えられたと考えられる。

図 3-4 支笏湖地区及び定山溪地区の宿泊客延べ数の最多月と最少月の相対比較（季節変化）



宿泊の最多月と最少月の比較では、令和3(2021)年度は令和2(2020)年よりも最少月の割合の数値は上がっているが数値は30未満と低く、定山溪地区では最少月の割合が20を下回り、2018年の64と比較すると厳しい状況となっている(図3-4)。

国立公園内外の主要施設は、令和3(2021)年度においても緊急事態宣言により休業や閉鎖、利用者数の制限の措置をとった施設が多いと考えられ、令和3(2021)年度利用者数は、**2019年度利用者数の半数、または6-8割程度となっている**。利用制限をしていない樽前山は、密を避けたアウトドア人気もあり、令和2(2020)年、3(2021)年と2019年度と比べて2-3割増となっている(表3-7, 3-8)。

また、令和3(2021)年度の主要施設の月別利用人数では、緊急事態宣言期間中の6月、9月において、多くの施設で利用人数が減少した(図3-5)。

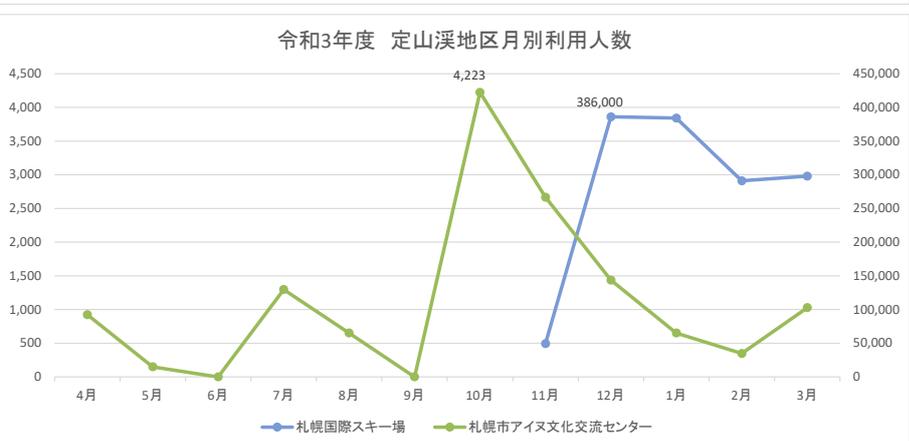
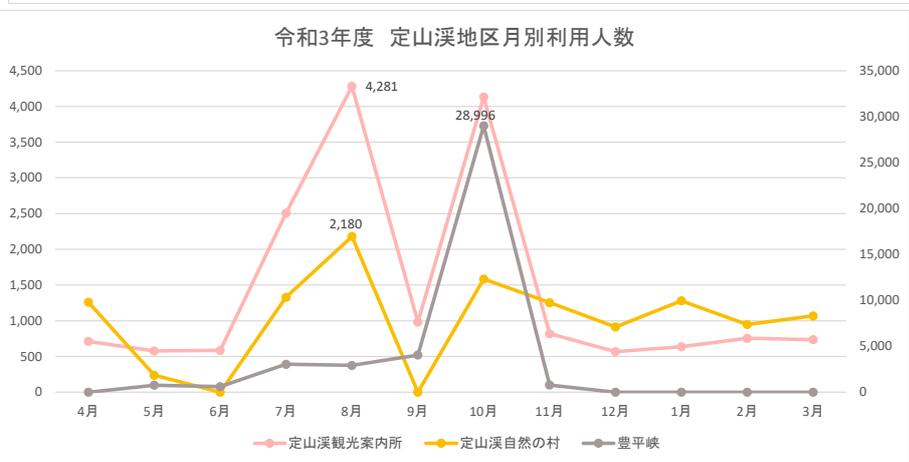
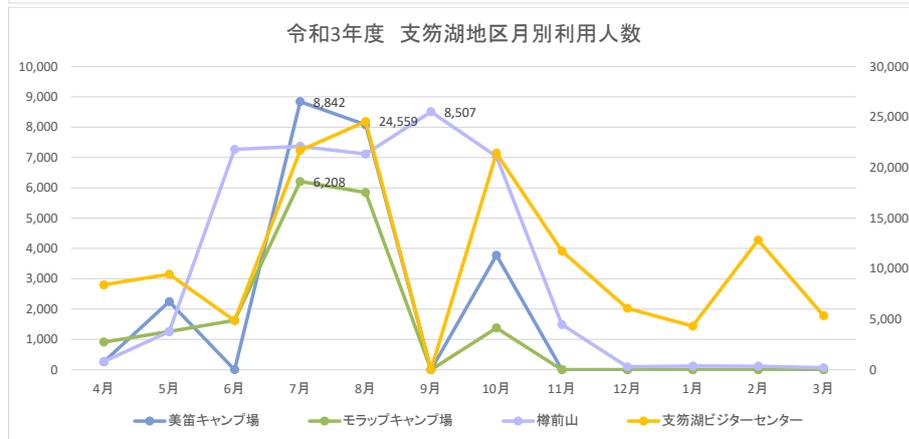
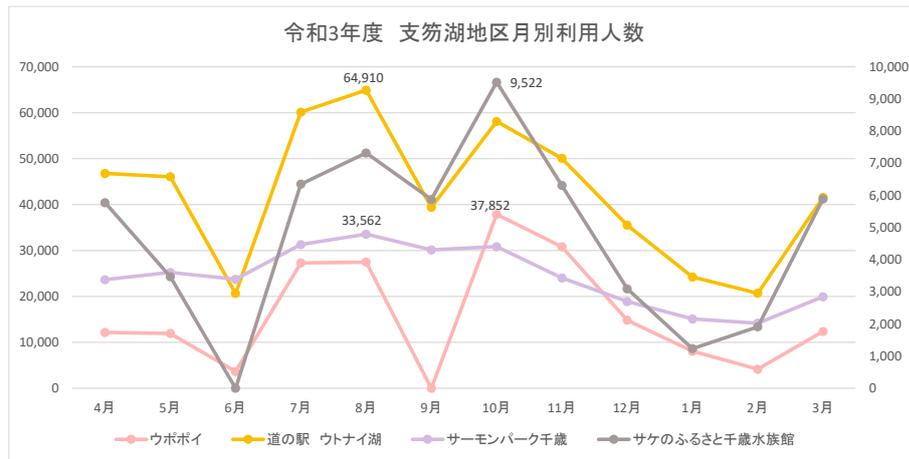
表 3-7 参考比較値：支笏湖地区の国立公園内外の主要施設等の利用状況の推移

施設名	所在地	種別	数値	年次	/2019年度	備考
国立公園内						
支笏湖ビジターセンター	千歳市	利用者数(人)	130,662	2021年度	49%	
			144,707	2020年度	54%	
			267,724	2019年度		外国人38,176
			249,082	2018年度		外国人40,839
			243,066	2017年度		外国人33,580
モラップキャンプ場	千歳市	利用者数(人)	17,230	2021年度	83%	
			27,302	2020年度	131%	
			20,822	2019年度		
			17,503	2018年度		
			18,770	2017年度		
美笛キャンプ場	千歳市	利用者数(人)	23,201	2021年度	65%	
			31,513	2020年度	89%	
			35,439	2019年度		
			24,632	2018年度		
			25,754	2017年度		
樽前山	苫小牧市	利用者数(人)	40,695	2021年度	134%	外国人(概数) 331人
			38,125	2020年度	125%	外国人(概数) 567人
			30,466	2019年度		外国人(概数)1,686人
			28,454	2018年度		外国人(概数) 994人
			33,605	2017年度		
道の駅						
サーモンパーク千歳	千歳市	利用者数(人)	290,519	2021年度	70%	
			309,638	2020年度	74%	
			417,952	2019年度		
			406,434	2018年度		
			398,006	2017年度		
ウトナイ湖	苫小牧市	来場者数(人)	508,051	2021年度	65%	
			555,977	2020年度	72%	
			777,220	2019年度		
			736,646	2018年度		
			757,831	2017年度		
主要観光施設						
サケのふるさと千歳水族館	千歳市	利用者数(人)	56,747	2021年度	47%	
			67,798	2020年度	56%	
			120,049	2019年度		
			118,452	2018年度		
			118,411	2017年度		
ウボボイ (2020年7/12オープン)	白老町	利用者数(人)	190,618	2021年度		2021年4月～2022年3月(内2021年6/1-6/21, 8/31-9/30は臨時休業)
			198,485	2020年度		2020年7/12-2021年3月

表 3-8 定山溪地区の国立公園内外の主要施設等の利用状況の推移

施設名	所在地	種別	数値	年次	/2019年度	備考
国立公園内						
豊平峡	札幌市	利用者数(人)	41,160	2021年度	46%	
			47,194	2020年度	53%	
			89,411	2019年度		
			70,331	2018年度		
			86,758	2017年度		
定山溪自然の村	札幌市	利用者数(人)	12,056	2021年度	51%	
			10,392	2020年度	44%	
			23,588	2019年度		
			20,817	2018年度		
			20,187	2017年度		
定山溪観光案内所	札幌市	利用者数(人)	17,292	2021年度	78%	外国人 257人
			21,327	2020年度	96%	外国人 236人
			22,279	2019年度		外国人8,070人
			21,712	2018年度		外国人7,567人
周辺観光施設						
札幌市アイヌ文化交流センター	札幌市	利用者数(人)	13,373	2021年度	23%	
			26,930	2020年度	46%	
			58,241	2019年度		
			55,083	2018年度		
			53,006	2017年度		
札幌国際スキー場	札幌市	リフト利用延べ人数(人)	1,653,250	2021年度	87%	
			1,674,000	2020年度	88%	
			1,908,000	2019年度		
			1,895,000	2018年度		
			1,811,000	2017年度		

図 3-5 支笏湖地区及び定山溪地区の国立公園内外の主要施設等の月別利用状況（令和3年度）



2. 令和4年度（2022年度）の取組について

1. 2022年度の取組にみられる特徴

① アドベンチャートラベル（AT）の推進

自然、アクティビティ、異文化体験を旅するアドベンチャートラベル(AT)の世界イベント（アドベンチャートラベルワールドサミット：ATWS）が2023年9月に、北海道でリアル開催されることが決定し、北海道をはじめとした関係機関が実行委員会に参画し準備を進めている。

推進プログラムの取組では、ATWS開催に向けてのツアーの磨き上げやガイド育成の研修会の開催、またATに関する事業への支援も行われている。コロナの収束と共に、今後増加が期待されるATに対応する人材育成が急務となっており、ATガイドの認定制度策定の検証事業も行われた。

AT対応の取組

ATWS2023開催準備	・2023年9月11～14日札幌開催に向けた準備(実行委員会への参画等) ATWS2022への参加による北海道PR、 大会初日の公式エクスカースション日帰りAT体験ツアー(DOA)等の造成等。 支笏湖周辺:DOAに2コース採択される (苔の回廊とカヤック/千歳川をカヌーで下り世界遺産遺跡等散策)
ATコース関係者の研修や ツアーの磨き上げ	・ATWS2023で開催されるツアーの関係事業者を対象としたセミナー開催 (宿泊施設や飲食店、アクティビティガイド等) ・ATツアーの磨き上げの実施、ATプログラムの開発または開発支援
ATガイド認証制度の検討	・AT対応に向けた人材育成研修 ・ATガイド認定制度策定に向けた検証事業

② サステナブルツーリズムの推進

ATWS2023で開催されるツアー関係者やガイドへの持続可能な観光に関するセミナーの開催、サステナビリティの観点からのATツアーコースの磨き上げやガイドの育成が行われた。

ATとは別に、外国市場へ向けて国立公園の自然環境保全等のSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRも行われた。

③ 適正利用にむけての調査や検討

樽前山や豊平川において登山や水辺利用の実態調査を行い、駐車対策や安全管理等の適正利用に向けた課題が整理された。定山溪温泉地区では、豊平川を中心としたまちづくり・かわづくりを検討する動きが見られる。支笏湖地区では、地域で策定した「支笏湖ルール」の普及と、安全管理と保全活動への利用者負担を踏まえたルールの運用についても協議されている。

④ 冬期の滞在メニュー充実に向けた取組

ニセコ地域と連携して造成した AT 冬期ツアー販売に向けての旅行会社招請や、スキー・スノーボードをしない観光客でも楽しめる観光コンテンツの造成支援等、夏季に比較して少ない冬季のコンテンツの充実に向けた取組がなされた。

⑤ 花と緑の観光交流拠点のイベント

6月から7月まで1か月間、恵庭市の花の拠点「はなふる」を主会場に開催されたガーデンフェスタでは道内外から約34万人が訪れ、観光案内所を通じて国立公園利用周知が図られた

⑥ 自主運行をふまえたスキー場シャトルバス試行

定山溪温泉から札幌国際スキー場への完全予約制シャトルバスが今シーズン試行され、運行データの結果により来年度以降の自主運行が検討される。今後、回復する外国人旅行者の移動手段として期待される。

2. 2023年度に向けた課題

【適正利用の推進】

コロナが収束し、外国人旅行者も回復してくるなかで、路上駐車や利用マナー等の適正利用の課題への対応が求められる。地域でのローカルルールの設定とともに、その普及や運用等、具体的な仕組みづくりが必要となってきた。

【ATの利用拡大とともに、持続可能な利用、ゼロカーボンの推進】

2023年度は、ATWSのリアル開催により、AT市場の関係者が多く来訪する。AT市場の多くを占める欧米豪圏では環境に配慮した持続可能な観光への関心が高いことから、利用施設やサービス等における脱炭素、ゼロカーボン対策を施した受入環境の整備、また環境保全への取組をツアー内容へ組込む等が望まれる。

【新たな指標や目標値の設定】

政府は、2022年10月11日より外国人観光客の入国規制を緩和し、入国者総数の上限を撤廃した。これにともない、支笏湖・定山溪地区においても外国人旅行者が増えていることが、各部会でも報告された。旅行需要喚起対策により国内旅行は活発に行われており、2022年度では2019年回復目標への達成も見込まれる。コロナ収束後における訪日外国人旅行者の増加を見据え、新たな指標目標を設定し、自然体験活動の質的量的な受け入れ環境を整えていくことが必要となっている。

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム
令和4年度(2022年度) 取組状況一覧

定山溪地区の取組	支笏湖地区の取組	共通の取組
----------	----------	-------

(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知

コロナ禍で身近なレジャーやマイクロツーリズムの重要性が叫ばれる中で、特に大都市圏に近接している定山溪・支笏湖地区は、そうした需要の受皿として重要な存在となっている。しばらく外国人の利用が見込めない状況を踏まえ、当面は、この地域を訪れる日本人旅行者をターゲットに、当該地域の魅力を様々なツールにより周知することで、より上質な自然体験活動を楽しむことができ、繰り返し訪れたいくなる国立公園地域をめざす。
 外国人旅行者に対しては、オンラインによる発信を継続し、コロナ終息後の来訪を誘致する。

① 観光案内所、WEB サイト等における情報発信

事業種別	実施主体	2022 年度 of 取組(予定計画)	2022 年度 of 取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降 of 展望、取組予定 (~2025 年度)
① 観光案内所、WEB サイト等における情報発信	札幌市	・各案内所にて、定山溪の多言語パンフレットの配布やイベント情報の発信を継続して実施	・各案内所にて、定山溪の多言語パンフレットの配布やイベント情報の発信を実施。	・2022 年度 of 取組内容を、2023 年度以降も継続していく。
	定山溪観光協会	・2021 年度末に当協会 HP をリニューアル。パンフレットもリニューアル予定	・HP に AI チャットボットを多言語向けにも追加 ・パンフレットも年末に向けて内容を更新	・随時更新を継続
	苫小牧観光協会	・観光案内所でパンフレット配布、情報発信のほか2022年度からは「ふるさと納税」でタクシーを使い樽前山登山に対応する予定	・苫小牧駅前観光案内所でのパンフレット設置、電話や対面による情報提供など。	・継続実施
	千歳観光連盟	・地域連携DMOとして千歳・支笏湖及び周辺地域のパンフレット設置や観光案内所にて電話、対面案内による情報提供の実施(2022年度以降継続) ・SNS (Facebook・Instagram) を活用した情報発信の実施(2022 年度以降継続)	・HTS・千歳駅で観光案内を行い、周辺情報の提供を実施。新たに美笛キャンプ場の指定管理を今年度から担い、観光案内所としては登録などしていないが、キャンプ場管理スタッフによる観光案内を実施。 ・SNS に関して facebook、Instagram を活用した情報発信を行なった他、美笛キャンプ場としての Instagram や HP のリニューアルを図り行うことができた。	・継続実施

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	恵庭観光協会	<ul style="list-style-type: none"> 千歳市、千歳観光連盟、支笏湖ビジターセンター、支笏洞爺国立公園管理事務所からパンフレットやチラシ、ポスターなどの提供を受け観光案内所にて配架・掲示、アクセスについては壁面の広域マップにて図示 6月下旬から1か月間開催の【ガーデンフェスタ北海道2022】にて周遊観光先の1つとしてルート等案内・紹介 	<p>同左</p> <p>※特に【ガーデンフェスタ北海道2022】は6/25から1か月間の会期中34万人が来場。当観光案内所利用客も多く、周遊先としてアクセスや所要時間などの紹介を行った。</p> <p>※フェスタ終了後も全国旅行支援実施に伴い、エリア内宿泊希望客に対しニーズ聞き取りのうえ施設の紹介を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支笏湖・定山溪エリアの周遊観光の強みを生かした振興局域・市域を超えたエリア観光推進のため共同プロモーション(エリアマップ・ルート化)による周知宣伝に併せ国立公園等利用方法の啓発活動実施

② 情報発信の機会の拡充

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
② 情報発信の機会の拡充	千歳市	<ul style="list-style-type: none"> 「千歳・恵庭・北広島広域観光推進協議会」事業における、3市連携による情報発信 	未実施	<ul style="list-style-type: none"> 「千歳・恵庭・北広島広域観光推進協議会」事業の取り組みを継続し、石狩南部の魅力を感じることができる満足度の高いルートを創出し、地域活性化を図る。
	北海道開発局 札幌開発建設部	<ul style="list-style-type: none"> 地域と道路管理者が一体で、秀逸な道の区間の磨き上げを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 秀逸な道及び周辺観光資源をパッケージ化したドライブ観光モデルコースを地域と道路管理者が一体となって作成。作成されたドライブモデル観光コースについてはHPで公表を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度取組内容を2023年度以降継続

③ 国内外への情報発信

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
③ 国内外への情報発信	北海道地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園コンテンツ集の、コンテンツの追加、見直しに加え、道内複数公園を周遊するコースの検討。国立公園公式SNS運営及び海外向け情報発信等業務継続(中国人インフルエンサーによる支笏洞爺国立公園の取材、情報発信を予定) 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然体験コンテンツガイドライン」によるセルフチェックを各事業者に依頼。コンテンツ集に掲載する内容の見直し コンテンツを組み込んだモデルコースとして、洞爺湖地区での「『生きた火山の博物館』を知る」を設定。内容について継続検討 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国立公園コンテンツ集の追加、見直し 支笏洞爺国立公園内での新たなモデルコースの検討、提案
		<ul style="list-style-type: none"> 支笏洞爺国立公園Facebook及びinstagram、国立公園公式Facebook及びinstagram(National Parks of Japan)、環境省ホームページの活用による国立公園魅力発信の継続 	<ul style="list-style-type: none"> SNS(FacebookとInstagram)およびホームページを活用し、支笏洞爺国立公園の魅力を発信 	<ul style="list-style-type: none"> SNS(FacebookとInstagram)およびホームページを活用し、支笏洞爺国立公園の魅力を継続発信
		<ul style="list-style-type: none"> 道内6つの国立公園のビジターセンターでの相互紹介、道内各空港での動画配信、日本の国立公園コンテンツ集への道内複数公園を周遊するコースの開発などを軸として、今後道内6公園と連携して情報発信を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 道内の担当職員間による意見交換などを通じ、連携方法について打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> 道内の担当職員間による意見交換などを通じ、道内6公園の連携を推進

④ 海外に向けたPR

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
④ 海外に向けたPR	札幌市	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、状況に応じた効果的な情報発信を行い、インバウンドの誘客を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月11日のインバウンドの訪日個人旅行の再開を受け、直行便再開を契機としたプロモーションを実施し、インバウンドの早期回復を図る。 中長期的な視点では、消費額・滞在日数の増加を図るため、都市型スノーリゾートのブランド化や、欧米豪市場への認知拡大に向けたプロモーションを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、インバウンドの早期回復に向けた各種プロモーションを行うとともに、中長期的な視点では、観光消費額や滞在日数の増加を目指し、都市型スノーリゾートのブランド化、欧米豪等の新たな市場での認知拡大を図っていく。
	千歳市	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの状況を見ながら対応 	<ul style="list-style-type: none"> バンコク日本博2022の北海道コンサドーレ札幌ブースにおいて、ポスター掲示及び観光PR映像の放映を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナ期、アスターコロナの各状況に応じて効果的な情報発信を行い、インバウンドの誘客を図る。
	千歳観光連盟	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの状況により、海外プロモーションを実施する。(2022年度以降継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを、オンライン説明会や現地視察により実施。 航空路線回復状況により、台湾、シンガポールでのプロモーションを計画中。 	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドが回復した際のスタートダッシュができる準備を行う。 <p>以前行っていた海外プロモーションを実施予定</p>
	北海道観光振興機構	<ul style="list-style-type: none"> 多言語サイト『GoodDay北海道』の言語(簡体字、韓国語など)ページの拡充を図る。また、北海道エアポートのサイトともリンクなど連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 多言語については英語・繁体字・簡体字・ハングル・インドネシア語で展開中。 北海道エアポートサイトへのリンク連携を行っているが、その他連携方法については模索中。 	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド回復期に合わせて多言語サイトの充実化を図るとともに、機構内の事業において当該地域のPRにも力を入れる。
	北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)	<ul style="list-style-type: none"> AT世界サミットへの参加(2022年度以降継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道運輸局の事業にて、ADVENTURE TRAVEL WORLD SUMMIT Lugano Switzerlandに参加し、マーケットプレイス、メディアコネクトなどで北海道のPR、各国の参加者とのネットワーキングを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ATWS北海道実行委員会」に参画し関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。

事業種別	実施主体	2022 年度 of 取組(予定計画)	2022 年度 of 取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降 of 展望、取組予定 (~2025 年度)	
④ 海外に向けたPR	北海道経済部 観光局	・ ATWS2023 が北海道に決定。関係機関と協力、連携し開催の準備を進める。	・ ATWS2022(スイス・ルガーノ)へ参加し、ATWS 2023 に向けた PR を行った他、来年の開催に向けた各種準備を関係機関と協力して実施 ・ AT に関するポータルサイト整備を実施	・ ATWS2023 の開催 ・ ATWS2023 終了後においてもさらに北海道の AT を推進するため、各種 PR 等を実施	
	北海道経済産業局	・ 引き続き ATWS2023 に向け、欧米を中心としたインバウンド誘客に係る商品造成・事業継続のため関係機関と連携し、事業者の積極的な施策活用を進める。	・ ATWS2022 スイスに参加し、次年度の ATWS 北海道開催に向けた PR を実施。 ・ ATWS2023 北海道開催に向け、関係機関と連携し準備を進めている。	・ 「ATWS 北海道実行委員会」に参画し関係機関と連携し ATWS2023 の成功にむけた取組を行う。	
	北海道運輸局	・ AT 世界サミットへの参加 (2022 年度以降継続)	・ スイス・ルガーノ ATWS 2022 に参加。 ・ ATWS2023 開催に向け、観光庁の事業を活用した北海道内の AT ツアーの磨き上げ、北海道以外で行われる PSA の選定・とりまとめに主体的に関与。	・ 「ATWS 北海道実行委員会」に参画し関係機関と連携し ATWS2023 の成功にむけた取組を行う。	
	北海道地方環境事務所	・ AT 世界サミットへの参加 (2022 年度以降継続)	・ 関係機関と連携し、ATWS2023 の受け入れ体制の整備に向けた取組継続	・ 関係機関と連携し、ATWS2023 の受け入れ体制の整備に向けた取組継続	・ 関係機関と連携し、ATWS2023 の受け入れ体制の整備に向けた取組継続
		・ ATWS への参加に向けての動画制作などの準備	・ 道内 3 公園を紹介する VR 動画を制作中	・ ATWS2023 を通じ、国立公園での AT を全世界へ向け、継続発信	・ ATWS2023 を通じ、国立公園での AT を全世界へ向け、継続発信
		・ ツーリズム EXPO、VJTM などにおける地域 DMO などと連携した支笏洞爺国立公園の情報の発信	・ 地域 DMO と連携した支笏洞爺国立公園の情報発信を継続中	・ ツーリズム EXPO、VJTM などにおける支笏洞爺国立公園の情報発信	・ ツーリズム EXPO、VJTM などにおける支笏洞爺国立公園の情報発信
		・ 引き続き、民間のインバウンド事業を支援していく予定	・ 観光庁との連携事業により国立公園支笏湖運営協議会が主体となって取組む「国内最高峰のゼロカーボンパーク構築・磨き上げ事業」を支援	・ 継続支援の予定	・ 継続支援の予定

(2) 自然体験プログラムの充実

安全性の確保やオーバーユースに配慮しながら、優れた自然景観と体験を楽しめる国立公園ならではの自然体験プログラムの拡充、開発を行う。特に、カヌー・カヤック、スタンドアップパドル、登山・トレッキング、サイクリング、スノーシュー、バックカントリースキーなどについて、ガイド同伴のプログラムを開発・充実させ、誰もが気軽にツアーに参加できる体制を整備する。また、ガイド人材は、プログラムの質や量に影響することから、ガイド人材の育成と技術向上を促進する。

① 実態調査(基礎調査)

事業種別	実施主体	2022年度の実組(予定計画)	2022年度の実組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、実組予定(～2025年度)
(基礎調査) ①実態調査	北海道地方環境事務所	・新型コロナの影響をみながら、支笏湖地区・定山溪地区における外国人を含むニーズ調査を定期的に実施	・支笏湖地区の樽前山登山道、および定山溪地区の豊平川河川敷で利用状況調査を実施	・支笏湖・定山溪地区における外国人を含む利用状況調査を実施

② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援

事業種別	実施主体	2022年度の実組(予定計画)	2022年度の実組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、実組予定(～2025年度)
技術向上支援 ②ガイド及びガイド事業者の育成、	北海道経済部観光局	・アウトドアガイドのAT対応スキル向上研修会の実施	・AT対応に向けた野外救急救命や英語対応等の人材育成研修を今後実施予定。 ・ATに対応したガイドの認定制度策定に向け検証事業を実施	・ATWS2023終了後においてもさらに北海道のATを推進するため、引き続き各種人材育成の取り組みを実施予定。 ・ATに対応したガイドの認定制度の通年運営試行を実施予定。
	北海道アドベンチャータラベル協議会(HATA)	・サステナブルツーリズムの側面から、PSA、ODA(ATWSで開催されるツアー)の関係者(宿泊事業者・飲食店・アクティビティガイド)等を対象とした観光セミナーを実施予定 ・ATに関わるガイドに対し、フィールドワークを中心とした持続可能な観光に関する研修を実施予定	・北海道運輸局が4会場で実施した「持続可能な観光セミナー」の講師を務め、サステナビリティに関する関係者の意識向上を図った。 ・AT世界サミットで実施されるPSA、DOAコースを、サステナビリティの観点から実地検証し助言することで、当該コースの磨き上げ、ガイドの育成を行った。	
	北海道地方環境事務所	・エコツアー人材育成研修の存在の周知と、必要に応じ研修への派遣の申請を行う。	・未実施	・周知および活用の継続

③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	千歳市	・支笏湖ビジターセンターの実施する自然体験学習プログラムへの補助金交付による支援継続	・支笏湖ビジターセンターの行う自然ふれあい事業について補助金を交付	・同左
	千歳市	・2023年 ATWS 北海道開催に向けたメニュー造成を支援	・民間事業者がメニュー造成を行う DOA コースについて、エクスカッションに参加し意見交換を実施。	・高付加価値で上質な体験を提供し、長期滞在を楽しめる大都市近郊型 AT 拠点としての機能を確立する。
	千歳観光連盟	・2021年度に実施したモニターツアー(ATツアーの商品等)の実販売を実施予定。	・コロナ状況が先行き不透明であったことから実販売には至らなかったが、航空会社との共同によるプログラム検証を実施。	・継続的に実施
	千歳観光連盟	・北海道訪日教育旅行促進協議会の事務局としてオンラインセミナーを開催(対台湾)	・台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のオンライン説明会を実施。	・新型コロナの状況により実施
	国立公園支笏湖運営協議会	・SNSで情報を発信しつつ、千歳観光連盟と連携してツアー商品の開発や魅力資源の掘り起こしをおこなっていく。	・SNSで情報を発信しつつ、千歳観光連盟と連携してツアー商品の開発や魅力資源の掘り起こしをおこなっている。	・千歳観光連盟と連携しながら、継続して魅力資源の発掘、商品化を進める。
	定山溪観光協会	・紅葉時期の紅葉かっぱバス(ガイド付き観光バス)を継続して行う予定	2022年度も紅葉かっぱバスを運行	・継続的に実施
③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	北海道観光振興機構	・ATWS2023が北海道に内定(2022年1月に確定予定)、新たに関係機関と協力、連携しモデルコースの造成など準備を進める。	・ATWS2022スイスルガーノへ機構会長および担当が視察。次年度北海道開催をPR。	・ATWS2023が正式に北海道に決定。引き続き関係機関との連携を深め、ATWSの成功に向けて準備を整える。またイベント後のAT事業のバックアップも行っていく。
		・地域が取り組む滞在メニュー(自然体験)やプログラムの開発、地元地域での活動の気運醸成などに対し、積極的に支援を行う。(事業名は未定)	・地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業において、88の事業が採択され、その中にワーケーション、アドベンチャートラベルなどがあり、採択事業の支援を行っている。	・地域の観光地づくりについて、引き続き支援を行うとともに、成功体験の共有や専門家によるアドバイスなども行っていく。

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	北海道経済産業局	・引き続き ATWS2023 に向けて、各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援する。(公募)	・ ATWS2023 に向けて、各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援。	・ ATWS2023 に終了後も各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援する。(公募)
	北海道運輸局	・ 2021 年度に千歳観光連盟、ニセコプロモーションボードと連携し、造成した AT 冬季ツアーについて、販売にむけた取組を継続	・ AT 冬季ツアーの販売に向け、観光庁事業で海外旅行会社を招請予定。	・ ATWS2023 において支笏湖周辺のエクスカージョンを実施するほか、ATWS2023 後も、AT 事業の実施に際し相談対応等により支援を行う。
	北海道地方環境事務所	・ 開発した訪日教育旅行コンテンツを、千歳観光連盟、北海道訪日教育旅行促進協議会などでの活用を目指す。	・ 昨年度作成した訪日教育旅行コンテンツ報告書を北海道訪日教育旅行促進協議会事務局である千歳観光連盟へ共有	・ 縄文文化、アイヌ文化、火山と防災など、公園内の教育資産を利用した旅行の提案継続
	北海道地方環境事務所	・ 2021 年度に作成した定山溪地区のアクティビティコンテンツ冊子等の配布を予定	・ 実施なし	・ 定山溪地区における自然を活用したアクティビティについて、官民連携して継続推進

(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理

近年、アドベンチャートラベル(AT)が世界的に注目される中で、国立公園はそのフィールドとして非常に適した環境を有しており、外国人富裕層などから注目を浴びている。特に支笏湖・定山溪地区は、札幌都市部や空港に至近であり魅力的な体験資源が多いことから、今後、国内外を問わず利用の拡大が想定される。

そのため、将来的には海外からの AT 旅行者誘致を進めつつ、そのフィールドとなる各種歩道、水辺等の保全や維持管理をはじめ、キャンプ場や宿泊施設等の滞在施設の充実を図っていく。

なお、自然体験のフィールドの整備や管理に関しては、安全性の確保やオーバーユース等を回避するため、行政及び受益者(利用者団体等)の協働による管理のあり方を検討し、その体制を整備する。また、フィールドを適切に利用するための案内、誘導等の施設やサービスを拡充する。

① 情報提供・案内機能の充実

事業種別	実施主体	2022 年度取組(予定計画)	2022 年度取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降の展望、取組予定 (~2025 年度)	
① 情報提供・案内機能の充実	千歳市	・支笏湖ビジターセンターの案内機能強化のため、運営機関への支援を継続する。	・支笏湖ビジターセンターの行う自然公園情報の収集及び提供事業について補助金を交付	・同左	
	千歳観光連盟	・環境省の湖面適正利用ルール策定に参加(2022 年度以降継続)	・美笛キャンプ場の指定管理を今年から行い、美笛地区からも適正利用に関する広報や周知など行った他、実際にキャンプ場利用者でライフジャケット未着用の方には注意をするなど実施。	・支笏湖全域での湖面適正利用の確立 ・継続実施	
	千歳観光連盟	・SNS(Facebook・Instagram)による情報発信の充実と強化(2022 年度以降継続)	・SNS に関しても facebook、Instagram を活用した情報発信を行なった他、美笛キャンプ場としての Instagram や HP のリニューアルを図り行うことができた。	・2022 年度以降継続 ・継続実施	
	国立公園支笏湖運営協議会	・支笏湖ビジターセンターのツアーデスクの設置やコンシェルジェ機能の試行等の案内機能強化については、千歳市が進めているヴィレッジ構想と調整して進める。	・支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、千歳市が進めているヴィレッジ構想と調整して進める。	・支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、千歳市が進めているヴィレッジ構想と調整して進める。	・支笏湖へ来訪された方々への現地案内、情報提供を充実させるため、関係機関との調整を図っていく。
		・支笏湖ビジターセンターにおける外国人対応のための英語対応職員配置への協力(支援)の継続	・同左	・同左	・同左
	国立公園支笏湖運営協議会	・高速道路の「千歳」「苫小牧中央」インター付近での「支笏湖」看板設置について、千歳市や関係機関と情報共有し、検討する。	・高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続	・高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続	・高速道路における「支笏湖」看板設置要請に関する検討を継続

事業種別	実施主体	2022 年度 of 取組(予定計画)	2022 年度 of 取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降 of 展望、取組予定 (~2025 年度)
① 情報提供・案内機能の充実	自然公園財団 支笏湖支部	<ul style="list-style-type: none"> 道内の国立公園を紹介するパンフレットの備え付け 各種案内表示やHP等の英語併記 JNTO認定カテゴリーIIについては、継続検討 英語対応スタッフを常時配置 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の当初計画を実施 ただし、JNTO 認定カテゴリーII の取り扱いについては、安定的な体制の確保を踏まえた検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の取り組みを継続 英語対応スタッフの確保が今後の課題
	苫小牧観光協会	<ul style="list-style-type: none"> 道々141号線(樽前錦岡線)の冬季通行止め等の情報をHPで提供(2022年度以降継続) 	<ul style="list-style-type: none"> 道々141号線(樽前錦岡線)の冬季通行止めや倒木等による通行止めの情報等をHPで提供(2022年度以降継続) 	<ul style="list-style-type: none"> (2022年度以降継続)
	定山溪観光協会	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度も継続して英語対応常勤スタッフ1名を配置する予定 	継続	<ul style="list-style-type: none"> 継続
	定山溪観光協会	<ul style="list-style-type: none"> QRコードによる温泉街の現地案内(多言語対応)の設置スポットをさらに数か所増やす。散策中に利用できる草花の図鑑機能を追加予定 	<ul style="list-style-type: none"> 10か所程度にQRコードを設置。Webページも図鑑機能を追加するなど改良予定 	<ul style="list-style-type: none"> QRサインボードの設置場所選定および設置を継続。既設置のサインボードの維持。図鑑機能の充実を図る。
	北海道開発局 札幌開発建設部	<ul style="list-style-type: none"> 国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発(安全情報マップの配布等)。マップは道の駅や各観光施設に配布(継続実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 同左(2022年度以降継続)
	北海道開発局 札幌開発建設部	<ul style="list-style-type: none"> 国道における高速道路のナンバリング標識整備、道路案内標識、交差点名標識の地名表示、道路情報板の英語表記の適正化(継続実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 同左(2022年度以降継続)
	北海道開発局 札幌開発建設部	<ul style="list-style-type: none"> 国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発、コロナの状況をみながら外国人道路利用者へ英語版マップの配布を継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 同左(2022年度以降継続)

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
① 情報提供・案内機能の充実	北海道地方環境事務所	・支笏湖ビジターセンターでのデジタルサイネージの活用継続	・デジタルサイネージをビジターセンター風除室に設置し、施設閉館中も含めて継続活用	・さらにコンテンツを増やし、利便性を向上
		・支笏湖ビジターセンター内や園地内の多言語化を含むユニバーサルデザインへの対応、Uni-Voiceによる多言語化の随時推進 ・支笏湖ビジターセンターウェブサイトの多言語化推進	・支笏湖ビジターセンター内ウェブサイトの多言語化を推進 ・支笏湖ビジターセンター等の施設、およびイベントを「国立公園スタンプラリー」参加地点として登録	・継続実施
		・携帯電話のビッグデータの活用による利用動態等調査を踏まえ検討	・携帯電話により収集したビッグデータを、樽前山の登山道の諸問題(利用過多)解決に向けて活用	・携帯電話のビッグデータ、その他の調査に基づき、誘客やオーバーユース対策など、適正利用を推進

② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	札幌市	・定山溪地区の集客と周遊促進を図るための拠点となる施設について、新型コロナウイルスの収束状況を見極めながら、施設の機能や整備手法について地元と調整を進めていく。	・定山溪地区の集客と周遊促進を図るための拠点となる施設について、新型コロナウイルスの収束状況を見極めながら、施設の機能や整備手法について検討する場を設けるなどしながら、地元と調整を進めていく。	・施設のあり方も含め、機能や整備手法について、引き続き地元と調整を進めていく。
	自然公園財団 支笏湖支部	・支笏湖園地の維持管理を継続実施 ・多目的室の貸し出しによる企画展を実施	・左記の当初計画を実施 ・多目的室は、8月・11月を除き貸し出し	現状の取り組みを継続
	北海道胆振総合振興局	・樽前山登山道の老朽化対策について対応 ・定期的な施設点検及び維持管理の実施	・樽前山登山道改修事業の2023年度実施に向けた調整 ・定期的な施設点検及び維持管理の実施(2023年度以降も継続)	・樽前山登山道の改修実施予定 ・適切な施設点検及び維持管理の実施

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	北海道石狩振興局	・モラップ線歩道の、利用目的や需要調査について地元と調整を進める。	・現地調査を実施し、歩道の損壊状況を確認。需要調査について今後の対応を検討中	・モラップ線歩道の需要調査を実施し、再整備について検討する。
	北海道石狩振興局	・二見定山の道の再整備のための落石等の危険性に関する地質調査、落石防止工事の一部実施	・令和4年6月から8月にかけて地質調査及び落石防止対策工事の設計を実施。 ・一部工事に向けて令和4年10月に入札を告示するも、不調となったため令和5年度に落石防止対策工事を実施する。	・二見定山の遊歩道の全面開通に向けて落石防止対策工事を実施する。
	北海道開発局 札幌開発建設部	・サイクルツーリズムを推進するためマップを完成させて、配布する。	・サイクルツーリズムを推進するためマップを作成中。	・同左(2022年度以降継続)
	北海道地方環境事務所	・モラップ野営場上質化に向けた施設改修を進めるとともに、モラップ地区の活性化に向けた設計を進める。	・モラップ野営場の上質化に向け、炊事場建替及びトイレ改修工事を実施。民間売店の移転に伴う、取付道路の整備、駐車場改修・テントサイト造成、電線地中化やWi-fi整備等については、検討継続	・同左(2022年度以降継続)
	北海道地方環境事務所	・登山道の環境保全と安全管理のための関係者の連携・協働型管理体制の検討。	・登山道に関する意見交換会を開催。特に樽前山での利用状況や安全管理体制、自然環境保全について、現況把握や情報共有	・同左(2022年度以降継続)

③ 魅力的な景観の保全、景観形成

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
③ 魅力的な景観の保全、景観形成	札幌市	・老朽化した施設の修繕や、緑が少なく寂しい印象になっていた場所への植栽等、魅力的な景観形成を行う民間事業に対して、補助を継続実施	・老朽化した施設の修繕や、観光客を引込むための滞留空間の設置、緑が少なく寂しい印象になっていた場所への植栽等、魅力的な景観形成を行う民間事業に対して、補助を継続実施	・2022年度の取組内容を、2023年度以降も継続していく。
	北海道開発局札幌開発建設部	・視点場の整備としてパークイングの名称を検討中(継続)		
	北海道地方環境事務所	・支笏湖第5駐車場における電線地中化の実施設計に基づき、電線地中化を進める。 ・必要に応じて樹木の定期点検、景観支障木の伐採を行う。 ・千歳川源流部の湖面利用適正化・老朽化栈橋等の景観改善、歴史の継承、氷濤まつり会場としての活用。第5駐車場エリアの再整備を、実施設計に基づき整備を進める。	・支笏湖第5駐車場の民間廃屋や単管栈橋の撤去を進めた。 ・危険木の点検結果に基づく樹木の伐採を予定 ・第5駐車場(イベント広場)の再整備、老朽化民間栈橋の撤去および公共栈橋の整備工事を行っているところ。 ・官民連携で湖面利用者の受益者負担の仕組みを継続検討	・第5駐車場再整備に伴う電線地中化工事を実施。 ・千歳川源流部の湖面利用の適正化、受益者負担を基本とした整備の継続。氷濤まつりなどイベント活用。 ・第5駐車場エリアの受益者負担を基本とした整備と、エリア管理の継続。

④ 安全、安心な環境づくり

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
④ 安全、安心な環境づくり	苫小牧市	・継続実施(ホームページによるマナー・注意事項等の周知、登山者数のカウント、英語表記リフレットの配布)	・同左	・同左(～2025年度)
	北海道地方環境事務所	・支笏湖第5駐車場における電線地中化の実施設計に基づき整備を進める。(22年度以降) ・必要に応じて樹木の定期点検、危険木の伐採を行う。	・上記の③と同様	・同左(2022年度以降継続)

(4) サステイナブル・ツーリズムの実現

持続可能でよりよい世界を目指す国際目標の SDGs が世界的な広がりを見せる中、適切な利用と自然環境保全を両立させ、国立公園のサステイナブル・ツーリズムを実現する。関係者の環境意識を高めるとともに、電気自動車や自転車等の導入や再生可能エネルギー利用を高める等、CO2 排出を削減する取組を様々な分野、場面で取り入れる。

国立公園の景観整備も持続可能な観光の推進に向けた重要なテーマであり、国立公園内の道路沿線や街区の景観改善などを進める。持続可能な利用のための様々なルールづくりやその普及を官民連携で推進する。

① CO2 排出削減をみすえた二次・三次交通の充実

事業種別	実施主体	2022 年度取組(予定計画)	2022 年度取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降の展望、取組予定 (~2025 年度)
① CO2 排出削減をみすえた二次・三次交通の充実	千歳市	・新千歳空港から支笏湖までの二次交通として電気自動車をカーシェアリングするなどの取組	未実施	・当市の豊かな自然環境を引き継いでいけるよう、2050 年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指し取り組んでいく。
	国立公園支笏湖運営協議会	・シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用を推進して、CO2 を出さない移動手段の確保、二次交通の不足分を補うことを進めていく。	・シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用の推進を継続	・シーニックバイウェイ事業とともに自転車利用の推進を継続して進める。
	自然公園財団支笏湖支部	・電動アシスト自転車の貸し出し ・モデルコースのツアーの企画・実施	・電動アシスト自転車は、225 台貸出し(前年 44 台) ・モデルコースのツアーは企画したものの、悪天候により中止	・現状の取組を継続
	定山溪観光協会	・コロナ感染状況を見ながら、周辺施設を結ぶ路線や空港直行路線の増便の検討をバス会社へ要請していく。	・今年度、定山溪温泉から札幌国際スキー場への完全予約制の無料シャトルバスが運行される。この結果をもとに、スキー場、バス会社で来年度以降の運行を検討する	・継続
	定山溪観光協会	・自転車利用の便宜を図るため、2021 年度に設置した案内所以外の箇所について、サイクルラック設置許可を申請中であり、許可され次第、設置予定	・今年度サイクルラックを 10 箇所設置。一定程度設置できた。	・利用状況を見ながら設置個所の選定を継続

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
充 実 ① CO2 排 出 削 減 を み す の 交 通	北海道地方環境事務所	・エネルギー特別会計を活用した補助事業・交付金について、ゼロカーボン推進に向け情報提供を行う。(2022年度以降継続)	・ゼロカーボン推進に向けて構成員相互の情報共有、補助金等(国立公園利用施設の脱炭素化推進支援事業)の情報提供を行った。	・同左(2022年度以降継続)
	北海道地方環境事務所	・支笏湖温泉駐車場における電気自動車用充電スポットの整備予定	・支笏湖温泉駐車場にEV充電スタンドを設置(2月に運用開始)。モラップ野営場のEV充電スタンドの運用開始	・同左(2022年度以降継続)

② 持続的な利用のためのルール策定と普及

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
環 境 づ く り 安 全 、 安 心 な	国立公園支笏湖運営協議会	・環境省、地域関係者とともに、利用者負担をふまえた湖面利用ルールの運用について協議、検討する。	・環境省、地域関係者とともに、利用者負担をふまえた湖面利用ルールの運用について協議、検討している。	・支笏湖の適正利用を推進するため、利用ルールの運用を進めていく。
	北海道地方環境事務所	・利用者負担を踏まえた湖面利用ルールの管理・運用主体についての検討を進める。(2022年度以降)	・「支笏湖ルール」の普及と官民連携による受益者負担の検討。	・地元や関係行政とともに、ルールの運用を推進

③ CO2 排出削減

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
出 削 減 CO2 排	北海道地方環境事務所	・支笏湖温泉地区における各種施設のゼロカーボン化	・支笏湖ビジターセンターの脱炭素化(地中熱ヒートポンプ・照明LED化・高断熱化)改修工事を継続	・同左(2022年度以降継続)

(5) 多様な滞在スタイルの推進

コロナ禍の影響により、国民の生活や仕事の様式は変化してきており、テレワークや仕事とレジャーを両立させるワーケーションという概念が新たな生活様式として普及しつつある。支笏湖定山渓地域の楽しみ方の一つとして、ワーケーションの普及を推進し、未利用の施設や資源、時間帯を活用し、宿泊事業等との協働により、その環境整備を図る。

① ワーケーション推進のための検討、調査

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
① ワーケーション推進のための検討、調査	千歳市	・千歳観光連盟、支笏湖運営協議会、温泉旅館組合などと連携して市全体でワーケーションの推進を検討	・ワークショップによるコンテンツの磨き上げ、研修及びチームビルドの強化を目的としたワーケーションプランの企画、ホームページ等情報発信手段の整備・強化を予定	・関係団体との連携によりワーケーション環境を整備し、観光振興を図る。
	国立公園支笏湖運営協議会	・地域の事業者や団体等と連携して、ワーケーションの商品化へつなげる。	・ワーケーション環境の整備状況並びに施設の取組状況を見ながら有効な商品開発に繋げ、ワーケーション推進を検討している。	・ワーケーション環境の整備状況並びに施設の取組状況を見ながら有効な商品開発に繋げ、ワーケーション推進を行う。
	北海道地方環境事務所	・ワーケーション推進への補助事業・交付金による支援・掘り起こし	・モラップ野営場キャンプセンター内のワーケーションスペースの整備	・同左(2022年度以降継続)

② ナイトタイムの充実

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
② ナイトタイムの充実	自然公園財団支笏湖支部	・「真っ暗支笏湖」の実施検討	・真っ暗支笏湖として「夜の園地で生き物さがし」を18:00～19:30で実施	・夜のイベントは実施検討していく
	北海道地方環境事務所	・新たな夜間ツアーの事業化の推進	・未実施(支笏湖ビジターセンターで「真っ暗支笏湖!夜の園地で生き物さがし」を開催)	・同左(2022年度以降継続)

(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携

支笏湖地区と定山溪地区の連携強化をはじめ、恵庭溪谷、果物狩り、縄文遺跡群やアイヌ文化体験、ホーストレッキング等の国立公園区域外の資源、施設、体験活動と連携し、新たな公園の魅力を創出する。また、他の国立公園等と連携した長期(一週間以上の期間等)の自然体験プログラムづくりを促進する。

① 周辺地域との連携

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
① 周辺地域との連携	札幌市	・HPやSNS等を利用した、定山溪観光協会が行う情報発信事業に対して、補助を継続実施	・定山溪観光協会HPやパンフレットのリニューアル、SNSの利用した情報発信等、定山溪観光協会が行う事業に対して、補助を継続実施。	・2022年度取組内容を、2023年度以降も継続していく。
	札幌市	・スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略に基づく札幌国際スキー場の活用について検討、調整、支援する。(2022年度以降継続)	・スキー場の魅力アップに向けた将来構想の策定や、スキー・スノーボードをしない観光客でも楽しめる冬季における観光コンテンツの造成を支援。	・スノーリゾートシティ SAPPORO 推進戦略に基づく札幌国際スキー場の魅力向上及び活用についての検討・調整・支援を継続し、大都市スノーリゾートとしてのブランド化を目指す。
	千歳市	・シーニックバイウェイへの参画など支笏湖と定山溪、また恵庭溪谷等の周辺エリアと連携したプログラムについて、関係各機関との情報共有のなかで検討	・シーニックバイウェイの活動として関係機関と連携しウェルカム花ロードを実施した。	・支笏湖と定山溪、恵庭溪谷等の周辺エリアとの連携強化を図る。
	千歳市	・世界文化遺産に登録されたキウス周堤墓の世界遺産とアイヌ文化(ウポポイ)を結び付けるなど周辺地域と連携した研修旅行の商品開発、造成	未実施	・縄文文化をテーマに周辺地域及び北東北縄文遺跡群所在地との連携強化を図る。
	恵庭市	・周辺自治体等との連携により周辺エリアにおける周遊プログラムを検討	・周辺自治体等との連携により周辺エリアにおける周遊プログラムを検討。恵庭溪谷等の観光資源及び新規宿泊施設を盛り込む方針について周辺自治体と協議。	・周辺自治体等との連携により周辺エリアにおける周遊プログラムを検討。
		・支笏湖地区との連携も見据え、恵庭溪谷誘客事業の検討	・支笏湖地区との連携も見据え、恵庭溪谷誘客事業を検討。恵庭溪谷を含めた、市内観光施設等への誘客事業としてはデジタルマップを作成。	・支笏湖地区との連携も見据え、恵庭溪谷誘客事業の検討
恵庭市	・支笏湖地区との連携も見据え、恵庭溪谷周辺に位置する緑のふるさと森林公園でのホーストレッキング事業を実施予定	・10月9日(日)、緑のふるさと森林公園にてホーストレッキング事業を実施した。親子を中心に約130名の利用があった。	・実施内容の充実を図れるよう事業者と協議しながら、来年度も取り組む予定。	

事業種別	実施主体	2022 年度の取組(予定計画)	2022 年度の取組状況、実施状況、進捗	2023 年度以降の展望、取組予定 (~2025 年度)
	恵庭市	・6月25日から7月24日まで開催されるガーデンフェスタ北海道2022(第39回全国都市緑化北海道フェア)開催にあたり、近隣の花と緑の観光資源などと連携及びPR	・道内各地の国営・道立公園、民間庭園の32ヶ所において協賛会場として連携し、会期中各所を訪れた方に「ガーデンフェスタカード」を配布。 ・全道各地において、花と緑の文化に触れていただいた。	・ガーデンフェスタの会場となった「花の拠点(はなふる)」について、フェスタ終了後も引き続き「はなふる」が花のまち恵庭及び北海道の花と緑の文化を体感できる観光交流拠点となるよう、近隣の花と緑の観光資源と連携する。
	定山溪観光協会	・2022年も継続して Gondoliner 号(紅葉時の札幌国際スキー場と定山溪温泉間のシャトルバス)を運行予定	・Gondoliner 号に加え、冬季のスキー客向け、札幌市より「観光需要回復支援事業」補助にて、定山溪～札幌国際スキー場に宿泊者専用の無料シャトルバスを運行。	・継続実施
	国立公園支笏湖運営協議会	・千歳支笏湖のアイヌ文化とも結びつけてのウポイとの連携方策を検討	・千歳支笏湖のアイヌ文化とも結びつけてのウポイとの連携方策を検討している。	・2022年度の取組を継続
	国立公園支笏湖運営協議会	・千歳市、苫小牧市等関係機関との情報共有により道道141号の冬季閉鎖解除要請について検討	・千歳市、苫小牧市等関係機関との情報共有により道道141号の冬季閉鎖解除要請について検討している。	・2022年度の取組を継続
	北海道地方環境事務所	・民族共生象徴空間ウポイとの協力体制構築の継続	・2件の体験プログラムを「日本の国立公園コンテンツ集」に掲載	・民族共生象徴空間ウポイとの協力体制構築の継続

② 支笏湖地区と定山渓地区との連携

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
② 支笏湖地区と定山渓地区との連携	定山渓観光協会	・環境省や歩道事業執行者である北海道による枠組調整後に、ツアー連携について検討を予定	・環境省や歩道事業執行者である北海道による枠組調整後に、ツアー連携について検討を予定	・引き続き検討を継続
	千歳観光連盟	・観光案内所にて情報共有を実施 2022年度以降継続	・観光案内所にて情報共有を実施	・2022年度取組を2023年度以降継続
	国立公園支笏湖運営協議会	・枠組みが整った段階で支笏湖と定山渓、また恵庭渓谷等の周辺エリアと連携したプログラムの開発を検討	・枠組みが整った段階で支笏湖と定山渓、また恵庭渓谷等の周辺エリアと連携したプログラムの開発を検討していく。	・2022年度の取組を継続

③ 他の国立公園との連携

事業種別	実施主体	2022年度の取組(予定計画)	2022年度の取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定(～2025年度)
③ 他の国立公園との連携	北海道アドベンチャータラベル協議会(HATA)	・外国人向け HATA ホームページに国立公園のリンクを貼り、情報発信を継続(2022年度以降も継続)	・引き続き情報発信を行う。	・「ATWS 北海道実行委員会」に参画し関係機関と連携し ATWS2023 の成功にむけた取組を行う。
	北海道運輸局	・海外メディアを活用した発信や、海外の旅行会社向け WEB セミナーを実施し継続的に情報発信を行う。2022年度以降も継続	・水際対策緩和を受けて、海外の旅行会社を実地に招請し情報発信を行った。	・「ATWS 北海道実行委員会」に参画し関係機関と連携し ATWS2023 の成功にむけた取組を行う。
	北海道経済産業局	・引き続き ATWS2023 に向けて、他の国立公園と連携した商品造成による誘客促進のため関係機関と連携し、事業者の積極的な施策活用を進める。	・今年度の取組等はなし。	・削除。
	北海道地方環境事務所	・道内 6 公園のビジターセンターでの相互紹介など、道内 6 公園の連携を推進	・道内 3 公園(利尻礼文サロベツ、大雪山、支笏洞爺)の VR 動画の総集編を制作中 (YouTube 等で発信予定)	・道内各空港での道内 6 公園の動画配信など、道内 6 公園の連携をさらに推進

(7) 自然体験活動の推進体制を強化

自然体験活動の推進に当たっては、既存の推進組織の強化を図るとともに、協議会構成員や関係機関、関連事業者と密接に連携し、各取組を効果的、効率的に実施するための体制づくりを進める。

① DMO等への組織強化

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定 (~2025年度)
① DMO等へ の組織強化	国立公園支笏湖運営協議会	・組織の新たな枠組と千歳市との連携体制の検討	・組織の新たな枠組と千歳市との連携体制の検討している。	・組織強化のための取組を継続

② 体制強化のための調査、計画

事業種別	実施主体	2022年度取組(予定計画)	2022年度取組状況、実施状況、進捗	2023年度以降の展望、取組予定 (~2025年度)
② 体制強化のため の調査、計画	北海道経済部観光局	・北海道アウトドア活動振興推進計画の推進(北海道知事認定ガイドの育成他)	・北海道アウトドア活動振興推進計画の推進(北海道知事認定ガイドの育成他)	・北海道アウトドア活動振興推進計画の推進(北海道知事認定ガイドの育成他)